

第3回川本来の姿を取り戻すWG 要旨

日時： 令和2年12月4日（金）13：30～15：30

場所： 高知県香美農林合同庁舎 1階 大会議室

参加者数： 21名

1 第2回ワーキング会議での意見交換結果の共有（報告）

事務局より、資料1 参考資料2に基づき、物部川の目指すべき姿（将来ビジョン）についての意見交換結果を報告した。

【結果】修正や追加等の意見はなかった。

2 物部川を目指す姿（将来像）の具体化（意見交換）

事務局より、資料2 参考資料3 参考資料5に基づき、（仮称）環境配慮書（案）に掲載する構成及び内容について説明した。また、物部川漁業協同組合及び国道交通省高知河川国道事務所から、物部川流域の取組事例について説明があった。

【主な意見】

- 川は蛇行している。護岸等もできるだけ変化を持たず（ダイナミズム）
- 対策を実施した上下流にも影響を及ぼす
- 動的平衡状態を保つものが、土砂の流下が妨げられて不均衡状態となっている
⇒河床低下の要因
- 渡り鳥の休憩場所などの整備は必要か
- 川やダムは重要な社会資本であり、持続可能性を持つために劣化を防ぐ社会的費用についての視点を持つことが大切
- 工事は局所的なものであり、最終的には上流域の整備が必要になってくる
- 環境に配慮することの意識を持つことで、河川管理上もマネジメントしやすくなる
- 物部川流域で環境活動に取り組む団体との連携を深める
- 技術者の役割は現場を歩くこと。河口から源流まで歩き自然状態の事例を出す
- みんなが行きたくなるような川という視点が必要（昔の釣り人や堰で遊ぶ子ども）
- 川本来の姿をどういう形で捉えていくかは、ダムも何も無かった時を基準に考える
- 対策の実施は緒に就いたばかりで、評価もまちまち。継続した取組と検証がいる。

【WG検討結果】

- 全体を俯瞰した配慮事項を検討する
- 川本来の姿を意識できる写真等を掲載する

4 その他

- 知恵を出し合い、止まることなく取り組みを続けてほしい
- ダムも完成から60年以上経過し、社会ニーズも変化しているため、有効に活用していく
- 出来ることについて考えていき、積極的に協力していく
- 次回のWG（2月頃予定）で、一定の成果について確認していただく